



令和元年5月10日

平成30年度科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」における 卓越研究員の公表について

平成30年度科学技術人材育成費補助事業のうち「卓越研究員事業」において、平成30年度の卓越研究員として決定した者（計55名）について、お知らせいたします。

○事業の目的

卓越研究員事業は、新たな研究領域に挑戦するような優秀な若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の多様な研究機関において活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示することを目的としています。

卓越研究員には、世界水準の研究力を有し、新たな研究領域や技術分野等の開拓が期待されています。また、産学官の研究機関で活躍し得る意欲や柔軟性を有しており、我が国の科学技術や学術研究、科学技術イノベーションの将来を担う優れた研究リーダーになることが期待されています。

○平成30年度の卓越研究員について（別紙参照）

平成30年度の卓越研究員として決定した者（計55名）について、氏名、雇用研究機関、研究分野及び研究テーマは、別紙1に記載のとおりです。

なお、卓越研究員を受け入れた研究機関のうち、卓越研究員が安定かつ自立して研究を遂行するための経費^{*}について、支援を希望する研究機関に対しては、補助金交付の申請を受け、交付のための手続きを行い、各研究機関において補助事業を開始しています。

（^{*}卓越研究員一人当たり、

研究費 600 万円上限/年（2 年間）、研究環境整備費 300 万円上限/年（1~2 年度目（3~5 年度目は 200 万円））

<担当> 文部科学省 科学技術・学術政策局

人材政策課 人材政策推進室

室長補佐 有 蘭 文博

基礎人材推進係長 荒田 孔明

電話：03-5253-4111（内線 4021）

03-6734-4021（直通）

メールアドレス：takuetsu@mext.go.jp

1. 事業概要

卓越研究員事業は、新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示することを目的とした事業です。

本事業のスキームは、以下のとおりです。

- ① 最初に、文部科学省が卓越研究員の受入れを希望する研究機関からポストを募集し、提示されたポストのうち要件を満たすものを文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のホームページを通じて、一覧化して公開します。
- ② それと並行して、若手研究者に対し、卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て、文部科学省が卓越研究員候補者を決定します。
- ③ その後、卓越研究員候補者とポストを提示した研究機関が個別に交渉（当事者間交渉）を行い、各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た（当事者間交渉が完了した）卓越研究員候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定し、必要に応じて、卓越研究員を受け入れた研究機関に対して、一定の期間、研究費等の支援を行います。

なお、平成29年度からの主な変更点は、以下のとおりです。

- (1) ポスト提示期間の柔軟化
締切りまでにポストを提示した機関においてのみ、12月末まで随時ポストの修正・追加を可能にすること。
- (2) ポストの分野の大括り化
研究機関がポストを提示する際、分野未指定や複数分野の指定を可能にすること。
- (3) 研究環境整備費の取扱いの柔軟化
研究機関に支給する研究環境整備費の金額を変更するとともに、以下の場合に研究環境整備費の取扱いを柔軟化すること。
 - ・日本国外の研究機関に所属していた若手研究者を卓越研究員として受け入れた場合
 - ・クロスアポイントメントにより卓越研究員を採用した場合
 - ・公開したポストに卓越研究員候補者以外の他機関所属の若手研究者を受け入れた場合

2. 公募期間及び申請件数

平成30年1月26日（金）から公募を開始し、同年12月末日までに、大学や公的研究機関、民間企業などから156件（59機関）のポスト提示にご協力いただき、同年3月8日（木）に文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のウェブサイトを通じて一覧化し公開しました。（別紙2参照）

その後、平成29年3月21日（火）より、申請者（研究者）からの申請を受け付け、同年4月25日（火）までの間、公募を行った結果、494名の申請者（研究者）から申請書の提出を受け付けました。

3. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、平成30年7月12日（木）に文部科学省において、200名の卓越研究員候補者を決定しました。

その後、卓越研究員候補者とポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、平成30年度末までに各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た旨、文部科学省に報告された卓越研究員候補者55名について、平成30年度卓越研究員として決定しました。

平成30年度卓越研究員決定者一覧

通番	氏名	採用機関名	部署名	ポストの分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	李 鶴	室蘭工業大学	地域協働機器センター	情報学	AIとIoT技術の融合による耐災害システム開発
2	陽川 憲	北見工業大学	工学部	農学・環境学/ 工学系科学/化学	植物の根の屈性にかかわる環境応答メカニズムの解明と新たな栽培法への応用
3	綱田 丈二	岩手大学	農学部	農学・環境学	社会的相互作用の脳内機構の解明：音声コミュニケーション中の脳内ネットワークの動的な挙動
4	野内 類	東北大学	加齢医学研究所	医歯薬学/生物 系科学	生活介入による認知機能の向上とMCI/認知症予防の取り組み
5	河合（久保田） 寿子	山形大学	学術研究院	生物系科学	光化学系-アンテナ複合体の構造・機能解明
6	笠松 秀輔	山形大学	学術研究院	数物系科学/情 報学/工学系科 学	物質・材料中の不規則性に対応するマテリアルズインフォマティクス技術の確立
7	羽田 真毅	筑波大学	数理物質系	数物系科学/工 学系科学/化学	極短パルス電子線を用いた物質の構造ダイナミクス研究の展開
8	神谷 厚輝	群馬大学	大学院理工学府	化学	細胞膜模倣型人工細胞膜による細胞機能の理解
9	星居 孝之	千葉大学	大学院医学研究院	医歯薬学	細胞内シグナル伝達によるエピゲノム制御機構の解明
10	NGUYEN KIEN	千葉大学	大学院工学研究院	情報学	Decentralizing Networking and Computing Infrastructure for Future Internet of Things
11	細野 暢彦	東京大学	新領域創成科学研究科	化学/工学系科 学	ナノ空間材料を足場としたソフトマテリアル化学
12	鈴木 郁夫	東京大学	理学系研究科	生物系科学	ヒト大脳皮質の進化を駆動する分子発生生物学的メカニズムの探索
13	土岡 俊介	東京工業大学	情報理工学院	数物系科学	リー環論における圏論的表現論の研究とモジュラー表現論への応用
14	藤枝 俊宣	東京工業大学	生命理工学院	化学/生物系科 学/工学系科 学	次元制御に基づくナノバイオデバイスの創製と革新的診断・治療技術の開発
15	菊池 博史	電気通信大学	宇宙・電磁環境研究センター	工学系科学/数 物系科学	計測工学分野における、降雨を起因とした気象災害の防災を目的とした、高精度降雨観測システムとその防災対策の研究開発。加えて、高時間分解能及び高密度観測を同時に実現する二重偏波を利用した、多機能型気象用フェーズドアレイレーダの開発及び積乱雲の発達過程と雷放電現象の関連性を明確化する観測的研究。
16	那須 譲治	横浜国立大学	大学院工学研究院	数物系科学	量子スピン液体と励起子絶縁体に内在する強相関電子系特有の時間依存ダイナミクスの研究
17	湊 菜未	新潟大学	自然科学系（農学部）	農学・環境学	植物-病原体-媒介昆虫の三者間相互作用に関する分子機構の解明
18	永野 中行	金沢大学	理工研究域数物科学系	数物系科学	K3曲面の周期による新しい保型形式の構成とその整数論への応用

19	渡邊 隼史	金沢大学	理工研究域電子情報通信学系	数物系科学/情報学	時間付き大規模テキストデータの物理学的な観点での解析と社会の関心・価値・感情・文化等の変化の観測への応用
20	山口 裕通	金沢大学	理工研究域地球社会基盤学系	工学系科学	多数の交通ビックデータの融合的活用が拓く移動行動のマクロな規則性に基づく新たな交通計画論の開拓
21	荒磯 裕平	金沢大学	医薬保健研究域保健学系	医歯薬学	不妊症・着床異常の分子メカニズムと臨床検査法
22	高井 千加	岐阜大学	工学部 化学・生命工学科	化学/工学系科学	スケルトンシリカ粒子の異常光学特性を応用した、マルチスケール構造制御されたスケルトン粒子複合フィルムの開発
23	藤原 幸一	名古屋大学	大学院工学研究科	工学系科学/情報学	医療データおよびプロセスデータを対象としたスモールデータ解析
24	大畑 祥	名古屋大学	宇宙地球環境研究所	農学・環境学/化学/数物系科学	測定手法開発と観測による大気エアロゾルの気候影響の解明
25	水本 憲治	京都大学	総合生存学館	工学系科学/社会科学	インフルエンザ/RSウイルス感染症を中心とした感染症の疾病負荷等の推定
26	梶村 昇吾	京都工芸繊維大学	情報工学・人間科学系	情報学	機械学習によるマインドワンダリング中の思考内容デコーディング
27	石垣 美歌	島根大学	戦略的研究推進センター	化学	分子分光分析を用いた生体活性の非破壊評価
28	鈴木 真太郎	岡山大学	大学院社会文化科学研究科	人文学	古人骨研究における文理アプローチの融合とバイオアーキオロジー（生物考古学）理論による古代文明の動態解明
29	大槻 純也	岡山大学	異分野基礎科学研究所	数物系科学	強相関電子系化合物における磁性と超伝導の第一原理計算法の開発と応用
30	今任 景一	広島大学	学術院（大学院工学研究科）	工学系科学/化学	応力や光に応答する機能性高分子材料の開発
31	斉藤 一哉	九州大学	大学院芸術工学研究院	- (分野指定なし)	折紙の幾何学と生物模倣による革新的なデジタルファブリケーション技術とデザイン教育手法の開発
32	アルブレヒト 建	九州大学	先導物質化学研究所	化学	Head-to-Tail型分子の機能開拓と有機エレクトロニクス材料への展開
33	東 大志	熊本大学	大学院先導機構	医歯薬学	超分子化学を駆使した分子アクセサリーの構築および超分子薬学への応用
34	松原 崇充	奈良先端科学技術大学院大学	研究推進機構	工学系科学/情報学	データ・知識融合型モデルベース深層強化学習技術の開発と実ロボット応用
35	藤井 佑介	大阪府立大学	人間社会システム科学研究科	農学・環境学/化学	大気中におけるバイオマス燃焼エアロゾルの性状特性及び動態の解明
36	福田 篤	東海大学	創造科学技術研究機構	医歯薬学	ヒトES/iPS細胞を用いた性差・ゲノム編集に基づく効率的神経細胞の作出機構の創出
37	倉重 宏樹	東海大学	創造科学技術研究機構	情報学	知識獲得および知識生成の認知・脳情報処理メカニズムの解明
38	野村 昂亮	日本原子力研究開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学/化学/工学系科学	重い不安定核構造の理論研究
39	荒木 康史	日本原子力研究開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学/化学/工学系科学	トポロジカル物質を中心とした量子交差相関応答の研究

40	山本 剛史	日本原子力研究 開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学/化学/工学系科学	J-PARCにおけるハイペロンを含む原子及び原子核の研究
41	植田 寛和	日本原子力研究 開発機構	先端基礎研究センター	数物系科学/化学/工学系科学	固体表面における分子の吸着とダイナミクス
42	玉手 亮多	物質・材料研究 機構	エネルギー・環境材料研究拠点	工学系科学/化学	リチウム金属負極の実用化に向けた、高分子技術を利用した新規電解質・界面設計
43	土井 康太郎	物質・材料研究 機構	構造材料研究拠点	工学系科学/化学	力学的化学的複合環境における構造材料の劣化予測を目指したメカノケミカル腐食センサの開発
44	松本 道生	物質・材料研究 機構	国際ナノアーキテクトニクス 研究拠点	化学/工学系科学	共役多次元ポリマーの精緻な合成と機能開拓
45	宇都 甲一郎	物質・材料研究 機構	国際ナノアーキテクトニクス 研究拠点	化学/工学系科学	メカノバイオロジーに立脚したバイオナノハイブリッドアクチュエーターの開発
46	宮島 大吾	理化学研究所	創発物性科学研究センター	化学/工学系科学	分子間相互作用に基づく材料科学
47	菅原 春菜	宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所 太陽系科学研究系	数物系科学	地球外有機物の地上分析および探査天体上での「その場」分析に向けた有機化学分析法の開発
48	赤池 幸紀	産業技術総合研究所	材料・化学領域 ナノ材料研究部門 ナノ界面計測グループ	化学/工学系科学	新奇層状窒化炭素材料の合成とその機能探索
49	松崎 雄一郎	産業技術総合研究所	エレクトロニクス・製造領域 ナノエレクトロニクス研究部門 エレクトロインフォマティクスグループ	工学系科学/化学	革新的量子情報処理システムの創出
50	加納 伸也	産業技術総合研究所	エレクトロニクス・製造領域 センシングシステム研究センター 生体情報センシング研究チーム	工学系科学/化学	体動に強い呼吸計の開発に関する研究
51	津田 宗一郎	株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ	ユーザーサポート部	生物系科学/農学・環境学	マイクロ流路チップセルソーターによる細菌や細胞が封入された微小液相のシングルセル・ハイスループット解析法の開発
52	小泉 愛	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	Research Lab.	- (分野指定なし)	脳科学に基づくメンタルヘルスケア基盤技術の開発
53	大熊 敦史	株式会社日立製作所	基礎研究センター	生物系科学/医歯薬学	CAR T細胞を用いた老化細胞の除去による個体老化の治療法の開発
54	熊本 明仁	日本電子株式会社	技術統括センター	工学系科学	非電子線損傷原子分解能観察・分析手法の開発
55	野澤 竜介	公益財団法人がん研究会	がん研究所 実験病理部	医歯薬学/生物系科学	DNA損傷により誘導されるクロマチン再編成のメカニズムの解明

平成30年度卓越研究員事業においてポストを提示した研究機関

●国立大学（36機関）		ポスト数
1	北海道大学	1
2	室蘭工業大学	1
3	北見工業大学	2
4	岩手大学	1
5	東北大学	2
6	秋田大学	1
7	山形大学	5
8	筑波大学	2
9	群馬大学	2
10	千葉大学	2
11	東京大学	5
12	東京医科歯科大学	1
13	東京工業大学	2
14	電気通信大学	10
15	横浜国立大学	1
16	新潟大学	1
17	長岡技術科学大学	1
18	金沢大学	7
19	福井大学	2
20	岐阜大学	2
21	浜松医科大学	1
22	名古屋大学	3
23	三重大学	1
24	京都大学	4
25	京都工芸繊維大学	2
26	大阪大学	2
27	島根大学	3
28	岡山大学	5
29	広島大学	2
30	九州大学	4
31	九州工業大学	2
32	佐賀大学	3
33	熊本大学	2
34	宮崎大学	2
35	鹿児島大学	3
36	奈良先端科学技術大学院大学	1
計		91

●公立大学（3機関）		ポスト数
1	首都大学東京	1
2	大阪府立大学	2
3	福岡女子大学	2
計		5

●私立大学（1機関）		ポスト数
1	東海大学	3
計		3

●国立研究開発法人（5機関）		ポスト数
1	日本原子力研究開発機構	4
2	物質・材料研究機構	10
3	理化学研究所	3
4	宇宙航空研究開発機構	4
5	産業技術総合研究所	5
計		26

●企業（13機関）		ポスト数
1	ユーグレナ	1
2	パナソニック	5
3	オンチップ・バイオテクノロジーズ	5
4	住友電気工業	1
5	ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
6	日立製作所	2
7	Nextremer	1
8	HIROTSUバイオサイエンス	1
9	ジーンクエスト	1
10	リバーフィールド	1
11	JFEスチール	9
12	シンクサイト	1
13	日本電子	1
計		30

●社団・財団法人（1機関）		ポスト数
1	公益財団法人がん研究会	1
計		1

●全体（59機関）		ポスト数
計		156

背景・課題

- 今後、**生産年齢人口の減少**が一層進む中、貴重な高度人材である**若手研究者の活用**を社会全体で無駄なく効率的に図ることが必要であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で重要。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

【事業の概要】

- ① 大学、企業等の研究機関からポストを募集
- ② 若手研究者を公募の上、審査により卓越研究員の候補者として選定
- ③ 候補者と研究機関との当事者交渉
- ④ 当該研究者を受け入れることとなった研究機関に対して、研究者の研究費や研究機関における研究環境整備費を支援

【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等
- ✓ 人数：100名程度(平成30年度新規分)
- ✓ 支援内容：若手研究者の研究費→年間6百万円(上限)／人(2年間)※
研究環境整備費→年間2～3百万円(上限)／人(5年間)

※ 人文・社会科学系は、400万円を上限

【事業イメージ】

